

2010年夏学期レポート

オンラインクラス 社会学入門

5月下旬から7月初旬の6週間の間、サマークラスとして社会学入門を受講した。今回は初めてオンラインで受講してみた。通信教育のようなもので、インターネットを通して講義を受けた。

今までオンラインクラスを受講している友人が周りに多くいたので、ずっと気になっていた。それも、今までの授業はすべて手話-先生が手話を話すか、手話通訳を通しての授業-で受けていたので、英語よりもアメリカ手話の方が理解しやすい私にとって、英語だけで受ける授業には少し不安があった。だが、今は英語にもだいぶ慣れてきたのと、さらに英語力を向上したいという気持ちもあって、オンラインクラスを受講してみた。

授業内容は、主に教科書を読み、小テストを受け、掲示板でディスカッションに参加する。その他、定期的にレポート提出とテストが行われた。オンラインだったので、個人的に課題やテストをこなして提出するだけかと思ったら、クラスメイトと掲示板でディスカッションをしたり、意見交換する機会があったこので驚いた。

当初、社会学と聞いて何を学ぶのかイメージができなかった。高校で習った現代社会みたいなことを学ぶのかなと想像していたが、学んでみると、違った。社会学は「人間」そのものの研究だと思った。社会を作り出しているのは「人間」である。人間の考えや行動がどう社会のしくみに影響するか、逆に社会のしくみがどう人間の考えや行動に影響するか。「社会のしくみ」と「人間」の関係性を文化、ジェンダー、集団、地位、権力、階級、制度、秩序、逸脱行為、など多方面から分析していく、という様なものだ。とても印象深いクラスであった。社会学は社会福祉にも応用できるので、今後機会があれば社会学のクラスをもっと取って、社会学についてさらに学んでみたい。

デフこどもキャンプボランティア

7月に一週間ライオンズウィルダネスキャンプという、デフこどもキャンプにボランティアとして参加してきた。キャンプに参加した子ども達は7歳~17歳のろう・難聴児で、合計45人。このキャンプではみんな手話でコミュニケーションをとることになっている。今日、メインストーリーミング学校に通うろう・難聴児は増加傾向にある。中には、ろう・難聴児は学校でたったひとりだったり、少数のみの児童も多くいる。今まで他のろう・難聴児に会ったことがない児童もいるだろう。キャンプなどの行事に参加し、他の地域のろう・難聴児と交流を図ることで、手話の習得や、アイデンティティの確立、同じ聞こえない仲間とのネットワークを広げることができ、また、成人ろう・難聴者がロールモデルとなることで、子ども達の将来に希望を与えることができる。

私の担当は、Aちゃんのサポートであった。Aちゃんは、脳性まひのために、手がうまく動かせず、手を使った細かい作業をするのが苦手である。Aちゃんが自分ででき

る事は自分で、できないことは、どうやったらできるようになるのか、どういうサポートが必要なのか、Aちゃんと一緒に考えて工夫しながら、Aちゃんのサポートをするように意識しながら励んだ。一週間Aちゃんと一緒に過ごして、何もかもやってあげるのではなく、あくまでも、側面からサポートする、というスタンスでサポートをすることがいかに大事かを学んだ。

キャンプ最終日、何人かの子ども達がわたしのところに来て、「また来年ね！」と言って帰っていくのを見て、キャンプを楽しんでくれたのだな、うれしくなるとともに、一年後の子ども達の成長が楽しみになった。来年もぜひ参加したい。